

平成26年度 第2回 調布市地域福祉推進会議 【議事要旨】

日時 平成26年7月24日(月) 18時30分～20時30分

場所 文化会館たづくり 西館2階 予防接種室

【出席】

- 1 出席委員 16人
- 2 事務局出席 福祉総務課, 生活福祉課, 高齢者支援室(高齢福祉担当, 介護保険担当), 障害福祉課, 子ども発達センター, 健康推進課, 子ども政策課, 調布市社会福祉協議会
- 3 傍聴者 3人

【資料】

<事前送付資料>

- 1 平成26年度第1回 調布市地域福祉推進会議 議事録
- 2 平成26年度第1回 調布市地域福祉推進会議 議事要旨

<当日配布資料>

- 1 議事次第
  - (1) 平成26年度第1回調布市地域福祉推進会議の議事録・議事要旨について
  - (2) 評価事業一覧(案)及び事業評価について
  - (3) 地域福祉コーディネーターモデル事業の報告
  - (4) その他

資料1 平成26年度事務事業進捗状況調査対象事業一覧

資料2 事務事業進捗状況調査について  
評価委員意見記入例及び記入用紙

資料3 地域福祉コーディネーターの事業活動報告

資料 生活困窮者自立支援法について

【議事要旨】

- 1 平成26年度第1回調布市地域福祉推進会議の議事録・議事要旨について  
議事録, 議事要旨について, 異議なく承認された。
- 2 評価事業一覧(案)及び事業評価について

○事務局

市の様々な事務事業の中から, 抽出した地域福祉に係る42の事務事業進捗状況調査をもとに, 推進会議委員による事業評価の実施について説明。

出席各課から事例として一つ事業概要を説明。

福祉総務課 災害時要援護者避難支援プランの推進

高齢福祉担当 見守りネットワークの推進

障害福祉課 障害者を地域で支える体制づくり

子ども発達センター 発達支援事業・相談事業の充実

健康推進課 がん検診の充実

子ども政策課 子育てに関する情報提供の充実

事業実績の評価とは別に、福祉の面からみたという視点で「市の福祉・健康施策に対する貢献度」について、事業実施課に4段階評価をしている。

○**会長**

説明事業について質疑

○**委員**

市が以前行っていた事務事業側面評価と同じか。  
実績評価の基準はどうなっているか。

⇒**事務局**

市では、事業評価を実施しており、その中で一部の事業について側面評価を行っているが、今回実施するのは側面評価ではない。実績評価は、明確ない数値の評価ではなく、立てた目標に対して達成できたもの、目標までは届かないが効果があったもの、そこまで至らないもののよう主管課の評価になっている。

○**委員**

数値目標がないのか

⇒**事務局**

各事務事業の上に施策があり、施策には数値目標がある。しかし、事業の中には数値で評価できるものもあるが、総合的な満足度評価のように数字の指標を明確に立てないものもある。

○**会長**

数字ははっきりしていて、それが達成できたかどうかで評価できるものと、もともと事業計画が数字で見るのが難しいものを目標にしているものがあると。

○**委員**

高齢者の健康づくり事業の推進に係るものと思うが、私がアンケートに回答したら、個人結果アドバイスが届いた。現在、この会議の参加やボランティアもしているが、介護予防の必要性ありという判定結果にショックを受けた。去年はなかったと思う。

○**会長**

市民がこの結果をどのように受け止めているかという点でとても大事なこと。

⇒**高齢福祉担当**

これは、2年に1回実施しているもので、結果を点数で機械的に出しているところがある。アドバイスの結果について説明会も実施しているが、今回のご意見を深く受け止めたい。

質問事項の中には、お叱りを受けるような表現も実際にあった。

この調査は、生活機能評価というもので、介護予防高齢者を判定するためのものだが、介護保険制度改正に伴い、今後見直し予定になっている。

○委員

評価は、資料にある42事業の中から自分で選んで記入するのか。

⇒事務局

42事業以外でも、委員が日頃から興味のある事業でも構わない。

評価するための資料も分る範囲で用意するので、連絡を。

評価は、委員の目線で意見を記入してほしい。

例えば、要援護者避難支援プランの推進で、現在5つの自治会と協定を結んだという結果について、5つできたと捉えるか、5つしかできていないと捉えるか。

○委員

事業のスタートにどんな目標があり、現在はどこまで進んでいるとはがわかりづらい。予算額ではなく、要するに、このお金が何につかわれたかということ。

⇒事務局

事業の細部については、所管課でないとわからないため、個別に質問していただき、回答したい。

○会長

見守りネットワークのコンピュータシステムの活用の中身について聞きたい。どことどこが繋がっているのか。

⇒高齢福祉担当

地域包括と行政の間で個別ケースの情報共有を図っているもの

○会長

見守りをしている場合に、何かランク付けをしているか。

どのくらいの見守りが必要か、例えば、毎日なのか、週に1回なのかとか。

⇒高齢福祉担当

ランク付けまではないが、気になる方をピックアップしていると理解している。

○会長

委員の皆さんが、評価するに当たり、事例として、「システムとしての活用としてどうなのか」と意見を出してみた。ぜひ関心のある領域で評価、意見をしてほしい。必要な資料は事務局で用意。

○委員

見守りで24時間、365日通報を受けるとあるが、実際はどうか。

⇒高齢福祉担当

包括支援センターは、24時間電話を受ける体制になっているので、連絡を。職場にいなくても転送される仕組みになっている。

## ○副会長

事業の評価に当たって、事業費の内訳、事業費、事務費、人件費がどのくらいかわからないと評価しづらい。

行政サイドから見ると、人が増えたことで、うまくいっていると評価するかもしれない。しかし、市民目線からは、我々にとって役立っているかどうかという評価ができる。そういうことで、良いのではないか。

## ⇒事務局

関心のある事業についてご質問いただければ、調査回答する。

## ○会長

評価、意見については、ふだんから気になっていて、あまり進んでいないのではなど出していく、ということの良いのではないか。

## 3 地域福祉コーディネーターの報告

### ○コーディネーター

染地・国領地域から2点報告

1つ目は、地域の話し合いの場づくり・・・地域の課題を住民の方と一緒に考え話し合う場をつくり、課題の共有、検討地域のネットワークによる問題解決を目指すこと。地域の中で孤立する人をつくらぬよう、地域の中で重層的なつながりをつくり、住民と専門職がどのように協働を進めていくかを考える機会とする。

2つ目は、個別相談から地域支援への取組の事例紹介。地方から転居してきて寂しいが、年寄りが気軽に行ける場所がないとの相談に、お住まいのマンションの中でのおしゃべりの場づくりがスタートできたこと。

安心して地域の中で暮らしていくためには、地域の中で助けたり助けられたりというお互いさまの気持ちや住民が自ら生活課題を発見、解決する地域の福祉力の向上支援が必要と感じている。

深大寺北の台地域から

1つ目は、これまで、知的障害者施設がなかった地域に、昨年開設した「希望の家深大寺」と移転してきた「わかば事業所」。双方の施設と地域をつなぐ取組を進めている。障害の理解が地域全体でできることを目指したい。

2つ目は、市の地域福祉推進計画と連動している社協の地域福祉活動計画について、地域福祉コーディネーターのいる2つの地域で、住民の皆さんと活動進めご意見をいただきよりよい取組に繋げていきたい。

### ○委員

これまでつながらなかったところで、おしゃべりの場づくりができてきたことはとても良いこと。地域が活性化すると思う。

## 4 生活者困窮者自立支援法について

生活福祉課から、資料を使って概略の説明

この法律が生まれた背景と趣旨について、なぜ生活困窮者自立支援制度が必要か。

この背景として、生活保護受給者の数が、ことしの3月では全国で約217万人を超えた。戦後最高の更新。65歳までの中で、病気とか障害で就労障害の要因のない方、稼働年齢層の方たちの増加が著しい傾向にある。

実は調布市でもこの傾向は同様。この稼働年齢がいる方の世帯が2,300世帯のうち約330世帯と全体の15%近い。

また、生活保護受給者の方のうち約25%の世帯主の方が、実は生活保護世帯の出身世帯であるという調査結果もあり、いわゆる貧困の連鎖という問題が生じている。

こうした中で、国においては住宅支援給付事業や総合支援資金の貸付制度を創設するなど、生活困窮者の事業を整備してきた。これは第2のセーフティーネットといわれているが、第2のセーフティーネットは全国的に十分かつ一律で整備されているとはいいがたく、社会保障制度や社会保険制度といった第1のセーフティーネットで救済できない生活困窮者の方に対する第2のセーフティーネットを充実強化することが求められることになってきたもの

#### ○会長

ハローワークですぐ就職できる方がいいが、就職して失業した後、1年、2年とたってしまうと、昼間、友達や近所の人に会いたくなくなって、夜しか動かなくなってしまふ。昼夜逆転してしまう生活になっている人が、すぐにハローワークに行って就職といってもできない。それで、日常生活自立というのは、例えば昼夜逆転している人に朝、おはようございます、起きましようというようにして、朝起きるところから生活を少し変えて、起きたって行くところがなければしょうがないので、地域の中で、まず就労というところよりも、社会参加でみんながちょっと集まっておしゃべりができたり何か一緒にやる。簡単なことをお手伝いするとか、場合によってはボランティアと一緒にやるとか。それが就労準備。次に、就労の訓練事業、その中で自信がかなりできてくるようになれば一般就労につなぐ。一般就労の場合も普通の就労が難しいので、それは今度は就労を受け入れてくださるところを開拓して、日常生活の自立、社会参加、訓練事業、そして就労というように丁寧に行こうと。

生活保護になる前に、ならないように支援していくという新しい考え方。

#### ○委員

以前に30代の方から相談を受けたことあるが、なかなか難しい問題

#### ○会長

これまでよりも少し丁寧な支援をしていく仕組みをつくろうとしているということ。

### 5 その他 事務連絡等

#### ○会長

最後に本日のまとめを

#### ○委員

事業評価は、一つ一つの事業をどの程度つぶさにチェックするかという話だが、どちらかという虫の目に近いと思う。地域福祉計画と照らし合わせ、計画のどこにこの事業が該

当しているのかとかというようにみていく。つまり鳥の目ももっていかないと、恐らく地域福祉計画で掲げた理念から漏れているようなものとかも気づきにくくなってしまおうと思う。そのあたりもここで議論するというか、それに関してはここでしか議論できないと思う。虫の目と鳥の目を持つ必要がある。

#### ○委員

地べたをはい回るような物の見方と、鳥が空からみるように全体を俯瞰してみる見方が必要だと。多分、地域福祉にはその両方が必要なのだというコメントかなと思って共感するところ。

地域福祉コーディネーターのモデル事業がいよいよ佳境に入ってきて、随分時間がたち2人をみると、地域住民に鍛えられてだんだんたくましくなってきたのかなという感じがする。

地域福祉コーディネーターは2人しかいないとみる人と2人もいるという人と、視点によって評価の仕方が変わってしまう。その辺のところに評価の難しさはやはりあるのかなと。これはなかなか解けそうで解けない問題。それに調布市としては挑戦していくというか、取り組んでいくということなので、その点は高く評価されてもいいのかなと思う。

これからますます地域福祉が中心になっていくとか主流になっていくような時代。

多分、高齢者も障害者も児童もみんな地域福祉が必要になってくるような時代なのかなと。そういう意味でいうと、庁内でもよく連携をとって、地域福祉を中心としつつ、高齢者、障害者、児童の福祉、それからそれ以外の福祉もぜひ向上するように取り組んでほしい。

#### ○事務局

次回は10月23日（木）。同じ場所で18時30分から

#### ○会長

本日終了。